

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (  可  否 )

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 山仕事	(ふりがな) やましごと	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	山廻り		
伝承地域	古殿町		
由来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか) 良材を得るためには必要な仕事だが、最近は山廻りをして手入れをしている人は見かけなくなった。		
内容	(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども) 山廻りとは山林の見廻りのことで、昔は隠居した老人の役割であることが多かった。鉈や鎌等を持って山へ入り、苗木の活着の確認や病木の確認など木の生育状態を観察して次の手入れの計画を立てるとともに、刈り払いや枝打ち、つる切り等の作業を行う。		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	古殿町教育委員会	電話	0257-53-3111

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名 (ふりがな)			※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵願います。(貼り付けずに、名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢	男 ・ 女	歳	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成	年 月 日 生	
	住所・電話	〒 電話		
団体	職 業			
	団体名 (ふりがな)			
	代表者氏名 (ふりがな)			
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成	年 月 日	
	問い合わせ先	電話		

【フリーフォーマット】

キーワード



写真 1



写真 2

写真 1 : 渡辺甲子雄さん

写真 2 : 作業のため山へ向かう



写真 3



写真 4

写真 3 : 伐採作業

写真 4 : 渡辺さんが手入れした  
山林

古殿町仙石に住む渡辺甲子雄さん(昭和4年生まれ)に、「山廻り」について聞きました。渡辺さんは現在地で生まれ、毎日、所有する山林に早朝から入り、伐採や間伐、枝打ちなど山林の管理をしている。

戦後、農業の傍ら25haの山に植林し、丹精込めて育てた杉が昭和55年の雪害により、そのほとんどが倒木した。それまでの苦労が、全て無駄になってしまった。この時に林業をやめる人が多かったが、渡辺さんは持ち前の負けじ魂から再度、林業に取り組むことにした。倒木した杉は茨城苗だったために雪に弱かったので、高田杉(旧会津高田町)や本名杉(金山町)など雪に強い杉、それとヒノキを植えた。他県の杉も検討したが、地元のものを選んだ。苗作りには苦労し、また、納得がいく山林にするまでに20年かかった。

渡辺さんは山を復興する際に、どのような苗が良いのか全国を視察して回った。その時に出会ったのが、天絞(てんしば)という杉だった。天絞は突然変異でできたもので、成長が早く、木に曲がない特性があるため高値で売れる。古殿町にもあったが、誰も気づかなかった。渡辺さんは、この天絞を古殿町の特産品にしようと普及活動をしている(古殿町天絞研究会長)。活動を始めてから今年で25年になり、町内では2,000本の天絞が立派に成長している。

渡辺さんが管理している山林は、手入れが行き届いているため立木には曲や節がなく、用材として使用できる部分が多い。雪害の時に残った杉が60年程経ち、渡辺さんは高齢にもかかわらず伐採や搬出を一人でやっている。風邪などひかず健康を保ち頑張っており、これも森林のおかげかもしれないと言っている。健康の続く限りまだまだこの仕事を続けたい、と語ってくれた。

(平成25年12月11日)